

## A. 鳥取県立岩美高等学校（特別活動）

学年 高校2年生



\*授業の風景

# 大切な心と体を守るために ～より良い人間関係について考えよう～

### 取組概要 と工夫

- 特別活動（ホームルーム）において指導。
  - ・ 取組に関する指導形態 : 学年一斉
  - ・ 取組に関する指導者 : ティーム・ティーチング  
(人権教育担当教諭・養護教諭がメインで指導し、  
学級担任が生徒のグループディスカッションを支援)
  - ・ 取組における指導内容 : 自他の尊重/性暴力について/デートDV
- 傍観者でいること、無関心でいることが、性に関する被害者や性的マイノリティをいかに生きづらくしているのかということに目を向けて、生徒一人一人が自分のあり方を見つめるとともに、『自分の大切さとともに他者の大切さを認める』人権意識や、そのための適切な実践力を高める指導を実施。

### 題材の 目標

- 「自分の大切さとともに他者の大切さを認める」人権感覚の育成  
性犯罪や性暴力を自分事としてとらえ、「性の問題は人権に直結する」との理解を深める。
- 人権問題に対する適切な理解と認識を深め、差別を許さず、人権が尊重される社会づくりに貢献できる人間の育成  
大切な心と体を守るための「より良い人間関係づくり」について適切なあり方を実践する。

### 題材に ついて

地方都市在住のため、性犯罪や性暴力を身近に感じられにくい生徒が本校には一定数在籍している。あわせて、思春期真っただ中の高校生の性に関する興味関心をいっただけに刺激することを抑える配慮も必要となる題材である。

これらを踏まえ、段階的に生徒の意識づけを図るとともに、問題を自分事としてとらえられるような視点で発問したり、生徒が自分のことばで本音を語り合えるプロセスを重視したりすることをとおして、性暴力・性犯罪の問題は誰にも関わる深刻な人権問題であることを理解させ、「（他者との）より良い関係づくり」に係る行動等について具体的に考察する。

### 学習指導 要領との 関連

#### 高等学校学習指導要領

特別活動編

第3章

第1節

2 ホームルーム活動の内容

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ア 自他の個性の理解と尊重、より良い人間関係の形成

オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立

## 指導計画

時	主な学習活動	主な学習内容及びねらい
1	講演会 (講師：野の花診療所 医師 徳永 進氏)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生きるということ」=「いのち」とどう向き合うかについて考える。</li> <li>自傷行為やSNSによる誹謗中傷、いじめ等の様々な問題がある中、他者を思いやることや自分を大切にすることはどういうことかについて考える。</li> </ul>
2 (本時)	導入指導 「大切な心と体を守るために」～より良い人間関係について考えよう～	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな行為が性暴力になるのかについて適切に理解する。</li> <li>デートDVの事例をもとに、性暴力や性犯罪が起きないようにするためにはどうすべきかについて考えることをとおして、自他の心と体を大切にしようとする態度を育てる。</li> </ul>
3	講演会 「より良い関係づくりのために」 (講師：ウイメンズセンター 大阪 代表 原田 薫氏)	<ul style="list-style-type: none"> <li>デートDV等に係る事実及びその背景等並びにより良い関係づくりを妨げている言動等について適切に理解し、自分のあり方を振り返る。</li> <li>適切な判断と行動が取れ、誰かのために動けることが重要であるとのマインドセットを喚起する。</li> </ul>
4	ピア・エデュケーション 「より良い交際」 (講師：鳥取大学医学部保健学科学生サークル「ピアインハート」に所属する学生、大島麻美氏(助教))	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ピア・エデュケーション」の手法を用いて性に関する基礎的な知識を学ぶとともに、生徒・学生間のワークショップをとおして性の問題は生き方や人権に直結することを理解し、自身の行動について適切な判断ができるようになる。</li> </ul>
5	事後指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の学びを振り返り、自分のあり方・生き方について考えを深める。</li> </ul>

## 授業の展開

ねらい

デートDVに係る事例をもとに性暴力が起きないようにするためにはどうすべきかについて考えることをとおして、自他の心と体を主体的に大切にしようとする態度を育てる。

### 学習活動

◎指導上の留意点 ◇評価<sup>1</sup>  
☆安全教育の視点に立った留意点

● 授業の目標及び学習内容の共有

☆成年年齢引き下げ等により、若者を取り巻く状況の変化から、性暴力や性犯罪に巻き込まれる危険性が高まっていることに触れる。  
☆自分を含めて誰もが「自分の心と体を尊重される権利」をもっていることを確認する。  
☆授業中に気分が悪くなったりする場合は教員に伝えた上で教室を退出しても良いことを伝える。  
◎生徒の表情等を観察するとともに適宜見守る。

- 1年次「性に関する指導講演会」の振り返り
- 性行為には「3つの命」に対する責任が伴う。(自分の命、相手の命、生まれてくる命)
  - 性の問題は、自分の人生、相手の人生、生ま

◎指導者・生徒間でのやり取りを重視する。  
◎1年次講演会時の講師(助産師)が用いたことばを多用することで、生徒それぞれが考えたこと

<sup>1</sup> 実践校による独自視点での評価指標。

<p>れてくる子供の人生に関わる大切なことだとの認識を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たちは誰もが、自分の心と体を尊重される権利を持っていることについても確認する。</li> </ul> <p>● 授業の主題の提示</p>	<p>等を効果的に想起させるよう工夫する。</p>
<p>大切な心と体を守るために、大切にしたいことは何かについて考えよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 性暴力とは何かについて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性暴力の一般的な定義を共有する。 →「自分の心と体を尊重される権利」を侵害するもの</li> <li>・ 生徒の状況や発達段階に応じた補助説明を行う。 (例) 性暴力とは「あなたが望まない性的な行為」のこと。 (例) 性別にかかわらず性暴力の被害に遭うことがある。</li> </ul> </li> <li>● 文部科学省「生命（いのち）の安全教育」動画教材を視聴する (冒頭～13分45秒まで)</li> <li>● 動画教材におけるポイントを確認する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性暴力の実態</li> <li>・ 性暴力は身近なところで起こっている →接触型暴力、非接触型暴力等</li> <li>・ デートDVも性暴力である</li> </ul> </li> <li>● グループディスカッション <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大阪府茨木市発行「デートDV 予防啓発冊子」（一部）を活用したケーススタディを、生徒間グループディスカッション形式で行う。</li> <li>・ グループ別に異なるケースを取り扱う。（4事例）</li> <li>・ それぞれの事例において、何が問題になっているのか、そしてそのことについてどう思うのかについて、幅広く意見を交換する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶事例1 携帯メモリーを勝手に消す！？</li> <li>▶事例2 「死んでやる」って。え～！？</li> <li>▶事例3 無理やり？ちょっとまって！</li> <li>▶事例4 「俺の女」？どういうこと？</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>● クラス全体で意見を共有し、デートDVの予防や問題解決のための視点等について考察する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ディスカッションをとおして考えたこと等をメンターに個別入力する。</li> <li>・ 生徒が投稿した意見や考えをテーマ別に一覧表示し、クラス全体で共有する。</li> <li>・ 共感的アプローチでどの意見や考えも取り上げた上で、デートDVの根本的な問題を適切に認識するためにそれぞれの事例において確認すべきことを共有する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆体に触れる暴力だけが性暴力ではなく、性的な言葉や行動で人を傷つけることも性暴力であることにこの段階で言及する。</li> <li>☆悪いのは加害者であり、どんな理由があっても性暴力は許されないことであることを確認する。</li> <li>◎生徒が、ワークシートに自分の本当の思い等を記入できているかどうか等について巡視し、観察する。</li> <li>◎記入を戸惑ったりする生徒については、状況に応じて声をかける。</li> <li>◇どんな行為が性暴力になるのかを理解している。</li> <li>☆接触型暴力だけでなく非接触型暴力についても、その問題性を適切に理解させる。</li> <li>☆レイプカルチャーに通底する、性暴力に係る誤った認識等についても適切に理解させる。</li> <li>◎生徒にフラッシュバック等が発生していないかどうかについて丁寧に観察する。</li> <li>◎ディスカッション中、指導者は原則として生徒のやり取りを見守ったり、より活発な意見交換のためにヒントを出したりすることに徹する。</li> <li>◎生徒が自分の本音を語れる雰囲気づくりに努める。</li> <li>◇自分の本当の思いをことばにしている。</li> <li>◇自分とは異なる他者の意見や考え方を共感的に受け止めている。</li> <li>◇分からないこと等について質問したりしながら積極的に意見を交換している。</li> <li>◎生徒が自分の本当の思いをタブレット型端末に入力できるよう、時間を十分に確保する。</li> <li>☆〈事例1〉 友人との付き合いや連絡を監視するのはプライバシーの侵害となることを確認する。</li> <li>☆〈事例2〉 相手の行動を監視したり、おどして自分の言うことをきかせようとしたりするのも暴力であることを確認する。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 性暴力を起こさないようにするために、私（達）がどうするべきかについて考えを深める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の欲求のまま行動せず、相手の気持ちを尊重して接する。</li> <li>・ 自分らしさを忘れず、自分の意思を持つことが大切。</li> <li>・ 相手の人権を尊重する対等な関係性こそ「より良い人間関係づくり」の基軸。</li> <li>・ 困ったときは、信頼できる人や外部機関に相談できる。</li> </ul> </li> </ul>	<p>☆〈事例 3〉 嫌がる行為を無理にすることは相手の人格を無視した暴力であり、恋人同士であっても、相手の気持ちが無視したセックスはレイプにあたり犯罪であることを確認する。</p> <p>☆〈事例 4〉 どんな人でも暴力を受けていい人などいないこと、そしてどんな場合でも暴力をふるうことは許されないことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 適宜、生徒がディスカッションで指摘した事柄等を引用しながら、共感的に思考を深められる展開を心がける。</li> <li>◎ 今後の授業で繰り返し言及するフレーズを必ず用いる。</li> <li>☆ 相談センター等の情報や連絡先等については、視覚教材に明記して、どの生徒にも周知を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web アンケートツールを活用してアンケートを実施する。</li> <li>・ 自由記述部分にもコメントを記載することをおして、自分のことばで授業を振り返る時間を確保する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 授業で感じたことや考えたことを整理し、自分のことばで振り返られるよう、時間を十分に取る。</li> <li>◎ 生徒がアンケートに回答している間は一切の指導や説明を控える。</li> <li>◇ 授業の学びを振り返りながら、自他の心と体を大切にしようとする心情が高まっている。</li> </ul>

**使用教材**  
**・準備物**

- 文部科学省「生命（いのち）の安全教育教材（含:動画）」を基礎教材とする<sup>2</sup>。

<sup>2</sup> 使用スライド教材については資料編別冊 126～128 ページを参照のこと。